

博士論文（要約）

論文題目 長浜曳山祭の都市社会学：

伝統消費型都市の生活共同と社会的ネットワーク

氏名 武田 俊輔

目次

第1章 本論文の目的と研究の視角	1
第1節 課題の設定	1
第2節 研究対象と分析の視角	3
第3節 本論文の構成	11
第2章 都市社会学における「町内」社会研究の不在とその可能性	14
第1節 戦後日本の都市社会学における「町内」	14
第2節 都市社会学における「家」と「町内」社会	18
第3節 都市民俗学と都市人類学における都市研究	26
第3章 本論文の分析視角：コモンズとしての都市祭礼	31
第1節 地域資源の利用と管理を通じた生活共同	31
第2節 都市祭礼へのコモンズ論的アプローチ	35
第3節 資源の複合体としての都市祭礼	39
第4章 山組における家と世代：祭礼をめぐるコンフリクトとダイナミズム	44
第1節 山組内での祭礼の管理におけるコンフリクトの意味	44
第2節 祭礼における家同士の負担と名誉の配分	46
第3節 中老と若衆相互の自己主張・自己顕示の機会配分	53
第4節 積極的に楽しまれ創出されるコンフリクト	56
第5節 コンフリクトが創出する祭礼の管理とダイナミズム	60
第5章 山組間における対抗関係の管理と見物人の作用：裸参りを手がかりとして	65
第1節 複数の町内間における対抗関係の管理	65
第2節 裸参りの持つ意味とその手順	67
第3節 裸参りに関するルールと喧嘩のプロセス	69
第4節 見物人の存在と対抗関係への作用	74
第5節 対抗関係の管理における暗黙の了解と協力	77
第6章 シャギリをめぐる山組間の協力と山組組織の再編	80
第1節 シャギリの管理を通じた山組組織の再編	80
第2節 雇いシャギリの確保の困難と囃子保存会結成への動き	82
第3節 山組内でのシャギリ方の育成と山組の継承システムへの影響	86
第4節 シャギリを通じた祭礼の開放とその管理の変容	88
第7章 若衆たちの資金調達と社会的ネットワークの活用	92
第1節 祭礼における町内・町内間を越えた社会的ネットワークの活用	92
第2節 祭礼をめぐる資金の調達と若衆のネットワーク	93

第3節	協賛金獲得への取り組みと用いられるネットワーク	95
第4節	協賛金集めの不合理性が持つ意味	98
第5節	社会関係資本の表象としての資金と(全体的)相互給付関係	102
第8章	曳山をめぐる共同性と公共性:コモンズとしての曳山の管理とその変容	105
第1節	曳山の管理と公共的な用益の提供	105
第2節	1990年代以前の曳山の管理をめぐる社会関係	108
第3節	中心市街地の衰退と曳山博物館構想の曲折	111
第4節	文化財という文脈の活用と曳山の管理をめぐる矛盾	118
第5節	公(共)的な意味づけを活用した共同的な管理	122
第9章	観光・市民の祭り・文化財:祭礼の継承における公共的な文脈の活用と意味づけの再編成	125
第1節	祭礼の公共的用益への提供とその再編成	125
第2節	戦前期大衆観光の流行と祭典補助費:1924年~1937年	127
第3節	観光資源という文脈の活用と市財政への依存:1950年~1965年	129
第4節	協賛会の設立と財団法人化の挫折:1966年~1978年	132
第5節	文化財指定と複数の公共的文脈の併存:1979年以後	134
第6節	公共的な用益の提供と行政との関係性	137
第10章	本論文における知見の整理と結論	139
第1節	本論文の問題設定と各章の整理	139
第2節	本論文の意義	141
第3節	本論文の課題と展望	147
参考文献		151

博士論文の全部が、すでに出版されているため全文公表できない。なお書誌情報は下記の通りである。

武田俊輔,2019,『コモンズとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社

ISBN: 9784788516298

参考文献

- 足立重和,2010,『郡上八幡 伝統を生きる：地域社会の語りとリアリティ』新曜社.
- 有本尚央,2012,「岸和田だんじり祭の組織論：祭礼組織の構造と担い手のキャリアパス」『ソシオロジ』(174):21-39.
- 有末賢,1999,『現代大都市の重層的構造：都市化社会における伝統と変容』ミネルヴァ書房.
- ,2007a,「日本の都市社会研究」北川隆吉・有末賢編著『講座日本の都市社会 5 都市社会研究の歴史と方法』文化書房博文社:193-218.
- ,2007b,「都市社会研究の系譜と都市社会学の射程：何が見落とされてきたのか」『法学研究』80(9):1-29.
- ,2007c,「総論 都市生活・文化・社会意識の特徴」有末賢・北川隆吉編著『都市の生活・文化・意識』文化書房博文社:19-48.
- ,2009,「書評：中野紀和著『小倉祇園太鼓の都市人類学：記憶・場所・身体』古今書院、2007年」『三田社会学』(14):129-132.
- ,2011,「都市研究は都市の民俗をどのように見てきたのか」有末賢他編『都市民俗基本論文集 4 都市民俗の周辺領域』岩田書院:7-24.
- 有賀喜左衛門,1939→1967,『有賀喜左衛門著作集Ⅲ 大家族制度と名子制度』未来社.
- ,1948→1969,「都市社会学の課題」『有賀喜左衛門著作集Ⅷ 民俗学・社会学方法論』未来社:151-203.
- ,1956,「村落共同体と家」村落社会研究会編『村落共同体の構造分析』時潮社.
- 芦田徹郎、2001,『祭りと宗教の現代社会学』世界思想社.
- 鱈坂学,1989,「地方都市『銀座』街の町内会：岡山県津山市の事例」岩崎信彦他編『町内会の研究』御茶の水書房:173-194.
- 東資子,2012a,「現在おこなわれている周辺村落の囃子」長浜曳山文化協会・滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科『長浜曳山子ども歌舞伎および長浜曳山囃子民俗調査報告書 長浜曳山祭の芸能』長浜曳山文化協会:200-206.
- ,2012b,「祭りと女性」長浜曳山文化協会・滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科『長浜曳山子ども歌舞伎および長浜曳山囃子民俗調査報告書 長浜曳山祭の芸能』長浜曳山文化協会:225-231.
- 出島二郎,2003,『長浜物語：町衆と黒壁の十五年』まちづくり役場.
- ,2012,『その後の長浜：2012～2013』まちづくり役場.
- Dore, R.P.,1958, *City Life in Japan: A Study of a Tokyo Ward*, Routledge & Kegan Paul.
(→青井和夫・塚本哲人訳,1962,『都市の日本人』岩波書店.)
- 藤田弘夫,1982,『日本都市の社会学的特質』時潮社.
- ,2016,「日本の都市社会学史をどのように考えるか：都市社会学発展の多様性と多系性」池岡義孝・西原和久『戦後日本社会のリアリティ：せめぎあうパラダイム』東信堂:87-112.
- 福田恵,2011,「都市社会における共有地の形成局面—大都市近郊と地方都市の地域間啓蒙に着目して」池上甲一編『都市資源の〈むら〉的利用と共同管理』(【年報】村落社会研究

- 47) 農山漁村文化協会:117-155.
- 福原敏男 (共編著), 2014, 『造り物の文化史: 歴史・民俗・多様性』 勉誠出版.
- 福原敏男, 2015 『江戸の祭礼屋台と山車絵巻: 神田祭と山王祭』 渡辺出版.
- 橋本章, 2017, 「歌舞伎芸能の地方伝播: 長浜曳山祭の子ども歌舞伎における振付の来訪の様相を題材に」 市川秀之・武田俊輔編著, 2017, 『長浜曳山祭の過去と現在: 祭礼と芸能継承のダイナミズム』 おうみ学術出版会:169-193.
- 橋本裕之, 1996→2014, 「保存と観光のはざままで——民俗芸能の現在」 橋本裕之『舞台の上の文化 祭・民俗芸能・博物館』 追手門学院大学出版会:117-130.
- , 2000→2014, 「民俗芸能の再創造と再想像——民俗芸能に係る行政の多様化を通して」 橋本裕之『舞台の上の文化 祭・民俗芸能・博物館』 追手門学院大学出版会:131-145.
- , 2001→2014, 「狭められた二元論——民俗行政と民俗研究」 橋本裕之『舞台の上の文化 祭・民俗芸能・博物館』 追手門学院大学出版会:146-172.
- , 2014, 『舞台の上の文化 祭・民俗芸能・博物館』 追手門学院大学出版会.
- 秀平文忠, 2002, 「長浜曳山祭の保存・伝承の支援拠点として: 曳山博物館の活動と可能性」 『月刊文化財』 (467):39-42.
- 平野敏政, 2000, 「生活組織と全体的相互給付関係 有賀『家』理論の基礎概念」 『三田社会学』 (5):76-81.
- Hobsbawm, E. and Ranger T.(eds), 1983, *The Invention of Traditions*, Cambridge University Press. (→1987, 前川啓治他訳『創られた伝統』 紀伊國屋書店.)
- 俵木悟, 1997, 「民俗芸能の実践と文化財保護政策—備中神楽の事例から—」 『民俗芸能研究』 (25):42-63.
- , 1999, 「備中神楽の現代史」 『千葉大学社会文化科学研究』 (3):97-119.
- , 2012, 「文化財／文化遺産をめぐる重層的な関係と、民俗学の可能性」 『東洋文化』 (93):177-197.
- , 2015, 「『護るべきもの』から学ぶべきこと -民俗芸能のフロンティアとしての無形文化遺産-」 『民俗芸能研究』 (59):56-75.
- 市川秀之, 2012, 「人材育成・芸能継承のための組織」 長浜曳山文化協会・滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科『長浜曳山子ども歌舞伎および長浜曳山囃子民俗調査報告書 長浜曳山祭の芸能』 長浜曳山文化協会:232-236.
- , 2017, 「序説・長浜曳山祭の歴史と現在」 市川秀之・武田俊輔編著, 2017, 『長浜曳山祭の過去と現在: 祭礼と芸能継承のダイナミズム』 おうみ学術出版会:1-41.
- 市川秀之・武田俊輔編著、滋賀県立大学曳山まつり調査チーム, 2012, 『長浜曳山まつりの舞台裏 大学生が見た伝統行事の現在』 サンライズ出版.
- 市川秀之・武田俊輔編著, 2017, 『長浜曳山祭の過去と現在: 祭礼と芸能継承のダイナミズム』 おうみ学術出版会.
- 池上甲一, 2011a, 「本書の課題と構成」 池上甲一編『都市資源の〈むら〉的利用と共同管理』 (【年報】村落社会研究 47) 農山漁村文化協会:8-21.
- , 2011b, 「都市の中の〈むら〉という問題設定」 池上甲一編『都市資源の〈むら〉的利用と共同管理』 (【年報】村落社会研究 47) 農山漁村文化協会:23-47.
- 池上甲一編, 2011, 『都市資源の〈むら〉的利用と共同管理』 (【年報】村落社会研究 47) 農

- 山漁村文化協会.
- 磯村英一 1959,『都市社会学研究』有斐閣.
- ,1989,「社会学の都市計画への接近：私の視点」『磯村英一都市論集Ⅲ』有斐閣:16-17.
- 伊藤久志,2016,『近代日本の都市社会集団』雄山閣.
- 岩崎信彦,1989,「町内会の可能性」岩崎信彦・鱒坂学・上田惟一・高木正朗・広原盛明・吉原直樹編『町内会の研究』御茶の水書房:469-477.
- 岩崎信彦・鱒坂学・上田惟一・高木正朗・広原盛明・吉原直樹編『町内会の研究』御茶の水書房.
- 柿崎京一,1988,「村落研究における有賀理論の視座」柿崎京一・黒崎八洲次良・間宏編,『有賀喜左衛門研究：人間・思想・学問』御茶の水書房:117-144.
- 川田美紀,2011,「都市における財産区の役割：阪神淡路大震災の被災地を事例として」池上甲一編『都市資源の〈むら〉的利用と共同管理』農文協:83-116.
- 菊池暁,1999,「民俗文化財の誕生：祝宮静と一九七五年文化財保護法改正をめぐって」『歴史学研究』(726):1-13.
- ,2001,『柳田國男と民俗学の現在：奥能登のアエノコトの二〇世紀』吉川弘文館.
- 菊池健策,2002,「国指定山・鉾・屋台とその行事に関する補助制度」『月刊文化財』(467):26-28.
- 菊池美代志,1990,「町内会の機能」倉沢進・秋元律郎編著『町内会と地域集団』ミネルヴァ書房:217-238.
- 金賢貞、2013,『「創られた伝統」と生きる：地方社会のアイデンティティ』青弓社.
- 北川隆吉・松岡昌則・和田清美・熊谷苑子・石原邦雄・永野由紀子・藤井勝・藤井史郎,2000,「総括討論」北川隆吉編『有賀喜左衛門研究 社会学の思想・理論・方法』東信堂:227-262.
- 小林忠雄,1990,『都市民俗学 都市のフォークソサエティ』名著出版.
- 小林力,2017,「三役と湖北農村部の娯楽」市川秀之・武田俊輔編著,2017,『長浜曳山祭の過去と現在：祭礼と芸能継承のダイナミズム』おうみ学術出版会:145-168.
- 小松秀雄,2008,「祇園祭の山鉾町のアクターネットワークと実践コミュニティ」鱒坂学・小松秀雄編『京都の「まち」の社会学』世界思想社:58-77.
- 小西賢吾、2007,「興奮を生み出し制御する ——秋田県角館、曳山行事の存続のメカニズム——」『文化人類学』72(3):303-325.
- 国友伊知郎,2016a,「昭和の長浜江州商人 原田良策の足跡 14：曳山博物館への道①」『滋賀夕刊』(2016年11月15日付).
- ,2016b,「昭和の長浜江州商人 原田良策の足跡 15：曳山博物館への道②」『滋賀夕刊』(2016年11月22日付).
- ,2016c,「昭和の長浜江州商人 原田良策の足跡 16：曳山博物館への道③」『滋賀夕刊』(2016年11月29日付).
- ,2016d,「昭和の長浜江州商人 原田良策の足跡 17：曳山博物館への道④」『滋賀夕刊』(2016年12月2日付).
- 倉沢進,1968,『日本の都市社会』福村出版.
- ,1977,「都市的生活様式論序説」磯村英一編『現代都市の社会学』鹿島出版会:19-29.
- ,1981,「1970年代と都市化社会」『社会学評論』31(4):16-31.

- ,1990,「町内会と日本の地域社会」倉沢進・秋元律郎編著『町内会と地域集団』ミネルヴァ書房:2-26.
- 前田俊一郎,2012,「民俗文化財を支える用具・原材料をめぐる現状:山・鉾・屋台行事の原材料調査と選定保存技術『祭屋台等製作修理』『月刊文化財』(584):25-28.
- 増井正哉,1994,「まち祭すまいー都市祭礼の社会的基盤・空間的基盤ー」谷直樹・増井正哉編『まち祇園祭すまい』思文閣出版:169-187.
- 松平誠,1980,『祭の社会学』講談社.
- ,1983,『祭の文化 都市がつくる生活文化のかたち』有斐閣.
- ,1990,『都市祝祭の社会学』有斐閣.
- ,1994,『現代ニッポン祭り考:都市祭りの伝統を創る人びと』小学館.
- ,2000,「都市祝祭論の転回:『合衆型』都市祝祭再考」日本生活学会(編)『生活学第二十四冊 祝祭の一〇〇年』ドメス出版:199-216.
- ,2008,『祭りのゆくえ:都市祝祭新論』中央公論新社.
- 松本通晴,1983,『地域生活の社会学』世界思想社.
- 松尾浩一郎,2015,『日本において都市社会学はどう形成されてきたか:社会調査史で読み解く学問の誕生』ミネルヴァ書房.
- 松岡昌則,1979,「現代農村における近隣関係:村落社会研究の分析視角をめぐって」『東北大学教育学部研究年報』(27):157-184.
- ,2000,「『全体的相互給付関係』の今日的継承」北川隆吉編『有賀喜左衛門研究』東信堂:187-190.
- 松下圭一,1959,『現代政治の条件』中央公論社.
- 森田三郎,1990,『祭りの文化人類学』世界思想社.
- 森田真也,2007,「『文化』を指定するもの、実践するもの:生活の場における『無形民俗文化財』」岩本通弥(編著)『ふるさと資源化と民俗学』吉川弘文館:129-160.
- 本禄賢志,2012,「ボランティアが見た稽古場」市川秀之・武田俊輔(編著)・滋賀県立大学曳山まつり調査チーム『長浜曳山まつりの舞台裏:大学生が見た伝統行事の現在』サンライズ出版:177-187.
- 村上忠喜,2009,「伝統的な都市の民俗」内田忠賢・村上忠喜・鶴飼正樹『日本の民俗 10 都市の生活』吉川弘文館:77-180.
- 村松美咲,2012,「山組の組織と今後」市川秀之・武田俊輔(編著)・滋賀県立大学曳山まつり調査チーム『長浜曳山まつりの舞台裏:大学生が見た伝統行事の現在』サンライズ出版:177-187.
- 長浜曳山文化協会・滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科,2012,『長浜曳山子ども歌舞伎および長浜曳山囃子民俗調査報告書 長浜曳山祭の芸能』長浜曳山文化協会.
- 長浜青年会議所(編),1983,『湖北ながはま 郷愁とロマンの里』保育社.
- 長浜青年会議所(編),1989,『曳山博物館: Visual Presentation』長浜青年会議所.
- 長浜青年会議所昭和 55 年度総合企画委員会(編),1980,『昇華:郷愁とロマンの文化圏湖北の展望 長浜曳山まつり』長浜青年会議所.
- 長浜青年会議所・滋賀県,1986,『湖国 21 世紀ビジョン地域討論会 シンポジウム「明日へ向けてのまちづくり」』滋賀県.

- 長浜市,1984,『博物館都市構想』長浜市.
- 長浜商工会議所(編),2001,『長浜商工会議所70周年記念誌』長浜商工会議所.
- 長浜市史編さん委員会(編),1999,『長浜市史第3巻 町人の時代』長浜市役所.
- ,2000,『長浜市史第4巻 市民の台頭』長浜市役所.
- ,2001,『長浜市史第5巻 暮しと生業』長浜市役所.
- ,2002,『長浜市史第6巻 祭りと行事』長浜市役所.
- ,2003,『長浜市史第7巻 地域文化財』長浜市役所.
- 長澤壯平,2009,「『上演』に根ざす岳神楽の近代」『早池峰岳神楽:舞の象徴と社会的実践』岩田書院:187-204.
- 中村八朗,1973,『都市コミュニティの社会学』有斐閣.
- 中村孚美,1972,「都市と祭り—川越祭りをめぐって」『現代諸民族の宗教と文化—社会人類学的研究 古野清人教授古稀記念論文集』社会思想社.
- 中村孚美,1986,「博多祇園山笠—そのダイナミクスとアーバニズム」『馬淵東一先生古稀記念 社会人類学の諸問題』第一書房.
- 中野紀和,2007,『小倉祇園太鼓の都市人類学:記憶・場所・身体』古今書房.
- 中野卓,1954,「都市調査」福武直編『社会調査の方法』有斐閣:.
- ,1964→1978,『商家同族団の研究:暖簾をめぐる家研究』(上・下)未来社.
- ,1964,「『地域』の問題と社会学の課題」中野卓編『地域生活の社会学』(現代社会学講座Ⅱ)有斐閣:1-45.
- 中野洋平,2012,「長浜曳山祭における三役の変遷とネットワーク」長浜曳山文化協会・滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科『長浜曳山子ども歌舞伎および長浜曳山囃子民俗調査報告書 長浜曳山祭の芸能』長浜曳山文化協会:220-224.
- 中筋直哉,1998,「都市社会調査法:一つの社会学入門」田中宏編著『社会学のまなざし』八千代出版:1-29.
- ,2006,「地域社会学の知識社会学」似田貝香門監修・町村敬志編集チーフ『地域社会学の視座と方法』(地域社会学講座Ⅰ)東信堂:192-212.
- ,2008,「日本の都市社会学:都市社会学の第1世代」菊池美代志・江上涉編『改訂版 21世紀の都市社会学』学文社:91-102.
- ,2013,「商家同族団の研究」中筋直哉・五十嵐康正編著『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房:166-167.
- ,2014,「コミュニティ研究における社会学の領分」『公共政策志林』(2):15-20.
- 中田実,1993,『地域共同管理の社会学』東信堂.
- ,2005,「地域共同管理論の成立と展開」『村落社会研究』11(2):1-6.
- ,2011,「地域共同管理組織としての〈むら〉と〈まち〉」池上甲一編『都市資源の〈むら〉的利用と共同管理』(【年報】村落社会研究47)農山漁村文化協会:157-186.
- 中里亮平,2010,「祭礼におけるもめごとの処理とルール:彼はなぜ殴られたのか」『現代民俗学研究』(3):41-56.
- 西川幸治,1994a,『都市の思想(上)』日本出版放送協会.
- ,1994b,『都市の思想(下)』日本出版放送協会.
- 西川丈雄,2012,「戦中・戦後の曳山祭」長浜曳山文化協会・滋賀県立大学人間文化学部地

- 域文化学科『長浜曳山子ども歌舞伎および長浜曳山囃子民俗調査報告書 長浜曳山祭の芸能』長浜曳山文化協会:237-244.
- 西村雄郎,2011,「都市における『町』の生成・展開と〈まち〉づくり」池上甲一編『都市資源の〈むら〉的利用と共同管理』(【年報】村落社会研究 47) 農山漁村文化協会:49-82.
- 西山八重子,2006,「〈農村-都市〉の社会学から地域社会学へ」似田貝香門監修, 町村敬志編集チーフ『地域社会学の視座と方法』(地域社会学講座 I) 東信堂:27-45.
- 似田貝香門,1973,「日本の都市形成と類型」倉沢進編『社会学講座 5: 都市社会学』東京大学出版会:47-78.
- 似田貝香門・蓮見音彦,1993,『都市政策と市民生活: 福山市を対象に』東京大学出版会.
- 奥田道大,1964,「旧中間層を主体とする都市町内会」『社会学評論』14(3): 9-14.
- ,1971,「コミュニティ形成の論理と住民意識」磯村英一・鶴飼信成・川野重任編『都市形成の論理と住民』東京大学出版会:135-177.
- ,1983,『都市コミュニティの理論』東京大学出版会.
- 大島暁雄,2002,「山・鉾・屋台行事の保護への新たな取り組み: 『山・鉾・屋台行事に関する調査研究』の報告」『月刊文化財』(467):4-9.
- ,2007,『無形民俗文化財の保護: 無形文化遺産保護条約にむけて』岩田書院.
- 近江哲男,1958,「都市の地域集団」『社会科学討究』3(1):181-230.
- Portes, Alejandro, 1995, Social Capital: Its Origins and Applications in Modern Sociology, *Annual Review of Sociology*, 22: 1-24.
- 齋藤純一,2000,『公共性』岩波書店.
- 才津祐美子,1996,『民俗文化財』創出のディスコース』『待兼山論叢(日本学篇)』(30):47-62.
- ,1997,「そして民俗芸能は文化財になった」『たいころじい: 太鼓と人間の研究誌』(15):26-32.
- 佐藤健二,2011,『社会調査史のリテラシー: 方法を読む社会学的想像力』新曜社.
- ,2015,「地方都市空間の歴史社会学: 自身の家と郷土を素材に」内田隆三編『現代社会と人間への問い: いかにして現在を流動化するのか?』せりか書房:296-319.
- 佐治ゆかり,2013,『近世庄内における芸能興行の研究: 鶴岡・酒田・黒森』せりか書房.
- 滋賀県長浜市教育委員会・長浜曳山祭総合調査団,1996,『長浜曳山祭総合調査報告書』滋賀県長浜市教育委員会.
- 嶋田吉郎,2015,「経営者の結社活動から見る伝統行事の再興プロセス: 青年会議所と飯塚山笠を事例として」『年報社会学論集』(28):148-159.
- 菅豊,2008,『川は誰のものか: 人と環境の民俗学』吉川弘文館.
- ,2010,「ローカル・コモنزという原点回帰: 『地域文化コモنز論』へ向けて」山田奨治編『コモنزと文化: 文化は誰のものか』東京堂出版:263-291.
- 鈴木榮太郎,1965→1977,『鈴木榮太郎著作集 6 都市社会学原理』未来社.
- 鈴木広,1985,「概説 日本の社会学 都市」鈴木広・高橋勇悦・篠原隆弘編『リーディングス日本の社会学 7 都市』東京大学出版会:3-16.
- 高木唯,2012,「まちなかの変容と山組」市川秀之・武田俊輔編著, 滋賀県立大学曳山まつり調査チーム『長浜曳山まつりの舞台裏: 大学生が見た伝統行事の現在』サンライズ出版:166-176.

- 武田俊輔,2000,「民謡の歴史社会学：ローカルなアイデンティティ／ナショナルな想像力」『ソシオロゴス』(25):1-20.
- ,2012a,「長浜曳山祭における社会的文脈の流用：観光／市民の祭／文化財」長浜曳山文化協会・滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科『長浜曳山子ども歌舞伎および長浜曳山囃子民俗調査報告書 長浜曳山祭の芸能』長浜曳山文化協会:245-257.
- ,2012b,「曳山まつりの継承とその未来」市川秀之・武田俊輔編著, 滋賀県立大学曳山まつり調査チーム『長浜曳山まつりの舞台裏：大学生が見た伝統行事の現在』サンライズ出版:188-209.
- ,2015,「都市祭礼の継承戦略をめぐる歴史社会学的研究：長浜曳山祭における社会的文脈の活用と意味づけの再編成」野上元・小林多寿子編著『歴史と向きあう社会学 資料・表象・経験』ミネルヴァ書房:129-151.
- ,2016a,「都市祭礼におけるコンフリクトと高揚：長浜曳山祭における山組組織を事例として」『生活学論叢』(28):17-30.
- ,2016b,「都市祭礼における社会関係資本の活用と顕示：長浜曳山祭における若衆たちの資金調達プロセスを手がかりとして」『フォーラム現代社会学』(15):18-31.
- ,2016c,「都市祭礼における周縁的な役割の組織化と祭礼集団の再編：長浜曳山祭におけるシャギリ（囃子）の位置づけとその変容を手がかりとして」『年報社会学論集』:80-91.
- ,2017a,「若衆-中老間のコンフリクトと祭礼のダイナミズム」市川秀之・武田俊輔編著『長浜曳山祭の過去と現在：祭礼と芸能継承のダイナミズム』おうみ学術出版会:231-268.
- ,2017b,「再解釈される『伝統』と都市祭礼のダイナミクス：長浜曳山祭における若衆-中老間のコンフリクトを手がかりとして」『東海社会学年報』(9) (近刊).
- ,2017c,「都市祭礼における対抗関係と見物人の作用：長浜曳山祭における『裸参り』行事を手がかりとして」『社会学評論』68(2) (近刊).
- 竹元秀樹,2014,『祭りと地方都市：都市コミュニティ論の再興』新曜社.
- 玉野和志,1993,『近代日本の都市化と町内会の成立』行人社.
- ,2002,「都市町内会論の展開」鈴木広監修, 木下謙治・篠原隆弘・三浦典子編『地域社会学の現在』(シリーズ社会学の現在 2) ミネルヴァ書房:75-88.
- 田中明,2002,「高山祭屋台の修理・製作技術の保護」『月刊文化財』(467):32-35.
- 田中志敬,2008,「京都の地域コミュニティと地域運営アソシエーション」鯨坂学・小松秀雄編『京都の「まち」の社会学』世界思想社:31-56.
- 田中重好,2007,『共同性の地域社会学：祭り・雪処理・交通・災害』ハーベスト社.
- ,2010,『地域から生まれる公共性：公共性と共同性の交点』ミネルヴァ書房.
- 谷口浩司,1998,「歴史的都心の商家と家族：京都中京・六角町」佛教大学総合研究所編『成熟都市の研究 京都のくらしと町』法律文化社:149-170.
- 辻竜平・佐藤嘉倫, 2014,『ソーシャル・キャピタルと格差社会——幸福の計量社会学』東京大学出版会.
- 鳥越皓之,1993,『家と村の社会学 増補版』世界思想社.
- ,1994,『地域自治会の研究：部落会・町内会・自治会の展開過程』ミネルヴァ書

房.

塚原伸治,2014,『老舗の伝統と〈近代〉:家業経営のエスノグラフィー』吉川弘文館.

内田忠賢(編),2003,『よさこい/YOSAKOI学リーディングス』開成出版.

上田惟一,1989a,「近代における都市町内の展開過程:京都市の場合」岩崎信彦他編『町内会の研究』御茶の水書房:77-104.

———,1989b,「京都市における町内会の復活と変動」岩崎信彦他編『町内会の研究』御茶の水書房:105-116.

上田喜江,2012,「長浜曳山祭と周辺村落:長浜囃子保存会以前のシャギリを中心に」長浜曳山文化協会・滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科『長浜曳山子ども歌舞伎および長浜曳山囃子民俗調査報告書 長浜曳山祭の芸能』長浜曳山文化協会:191-199.

———,2017,「シャギリと周辺農村」市川秀之・武田俊輔編著『長浜曳山祭の過去と現在:祭礼と芸能継承のダイナミズム』おうみ学術出版会:107-144.

植木行宣,2001,『山・鉾・屋台の祭り:風流の開花』白水社.

植木行宣(編著),2005,『都市の祭礼:山・鉾・屋台と囃子』岩田書院.

植木行宣・福原敏男,2016,『山・鉾・屋台行事:祭り

を飾る民俗造形』岩田書院.

上野千鶴子,1984,「祭りと共同体」井上俊編『地域文化の社会学』世界思想社:46-78.

和崎春日,1987,『左大文字の都市人類学』弘文堂.

———,1996,『大文字の都市人類学的研究:左大文字を中心として』刀水書房.

———,1999,「都市生活のなかの伝統と現代:民俗の変貌と創造」藤田弘夫・吉原直樹『都市社会学』有斐閣ブックス:177-195.

谷部真吾,2000,「祭における対抗関係の意味——遠州森町『森の祭り』の事例を通して——」『日本民俗学』(222):64-94.

矢部拓也,2000,「地方小都市再生の前提条件:滋賀県長浜市第三セクター『黒壁』の登場と地域社会の変容」『日本都市社会学年報』18:51-66.

———,2007,「地域経済とまちおこし」岩崎信彦・矢澤澄子監修、玉野和志・三本松政之編集チーフ『地域社会の政策とガバナンス(地域社会学講座3)』東信堂:88-102.

山田浩之,2016,「新しい共同性を構築する場としての祭り:祇園祭に見る祭縁の実態」山田浩之(編著)『都市祭礼文化の継承と変容を考える:ソーシャル・キャピタルと文化資本』ミネルヴァ書房.

山田奨治,2010,「〈文化コモンズ〉は可能か?」山田奨治編『コモンズと文化:文化は誰のものか?』東京堂出版:6-43.

柳田国男,1942→1998,「日本の祭」『柳田国男全集』(13)筑摩書房:355-508.

安田三郎,1956,「都市社会学の回顧」福武直編『日本社会学の課題:林恵海教授還暦記念論文集』有斐閣:99-116.

矢島妙子,2015,『「よさこい系」祭りの都市民俗学』岩田書院.

矢崎武夫,1962,『日本都市の発展過程』弘文堂.

———,1963,『日本都市の社会理論』学陽書房.

米村千代,2014,『「家」を読む』弘文堂.

米山俊直,1974,『祇園祭——都市人類学ことはじめ』中央公論社.

- 米山俊直, 1979, 『天神祭——大阪の祭礼』中央公論社.
- 米山俊直, 1986, 『都市と祭りの人類学』河出書房新社.
- 吉田竜司, 2010, 「伝統的祭礼の維持問題: 岸和田だんじり祭における曳き手の周流と祭礼文化圏」『龍谷大学社会学部紀要』(37):28-42.
- 吉野英岐, 2016, 「日本の農村と戦後農村社会学の展開」池岡義孝・西原和久『戦後日本社会のリアリティ: せめぎあうパラダイム』東信堂:113-142.

論文の内容の要旨

論文題目：長浜曳山祭の都市社会学：伝統消費型都市の生活共同と社会的ネットワーク
氏名：武田俊輔

本論文の目的は、近世以来の歴史をめぐる地方都市（伝統消費型都市）、特にその都市を構成する名望家層である商工業者たちの「家」を中心に構成された「町内」の社会構造と社会的ネットワークについて明らかにすることである。具体的には「町内」が担い手となる都市祭礼を通じて、「町内」内部や「町内」間の社会関係、「町内」社会を構成する人びとの社会的ネットワークや、「町内」と行政・経済団体との関係性や相互交渉を描き出す。そのことを通じて伝統消費型都市の社会構造とそこに生きる人びとの社会意識を明らかにし、また従来の都市社会学において十分に展開されてこなかった地方都市の分析枠組みを提示する。

本論文は3部構成である。「第I部 課題の設定と分析視角」では、論文の問題設定と研究対象の説明、先行研究の検討、分析視角の提示を行う。第1章「本論文の目的と研究の視角」では上記の本論文の課題を設定し、具体的な研究対象として典型的な伝統消費型都市である滋賀県長浜市、特にその「町内」である「山組」という地縁組織をとりあげ、祭礼が執行する場とその準備のプロセスにおける山組の人びと同士や山組間、山組と外部のアクターとの関係性について分析することを論じた。

第2章「都市社会学における『町内』社会研究の不在とその可能性」では先行研究の検討を行った。戦後の都市社会学では、規範としての市民意識の確立を問うコミュニティ論が中心となり、「家」同士の関係性を基盤とした「町内」、そして「町内」を核とする伝統消費型都市の社会構造に関する分析は不十分にとどまった。本論文では都市を聚落的家連合として分析する有賀喜左衛門と中野卓の視点の意義を確認し、それを引き継いだ有末賢と松平誠による都市民俗・都市祭礼を通じた都市社会学的研究、さらに都市人類学や都市民俗学などの関連領域の研究について批判的に検討した。その上で①祭礼における社会変動への対応をめぐる葛藤・対立、妥協・決定のプロセスに注目することによって、祭礼自体や「町内」の変容の契機を具体的に描き出す必要性、②世代を越えて引き継がれた「家」同士の「家連合」的な関係性において、負担と名誉の配分をめぐる「家」同士の全体的相互給付関係が成り立つ仕組みを分析する必要性を論じた。

第3章「本論文の分析視角：コモنزとしての都市祭礼」では、農村社会学における地域資源の管理に関する研究やコモنز論を批判的に検討しつつ、伝統的な地方都市の社会構造を明らかにする上での都市祭礼をコモنزとみなすアプローチの有効性を論じた。本論文では都市祭礼を以下の①～⑨の資源が管理される一連のサイクルとみなす。すなわち①人材、②山車等のモノ、③技能、④資金といった資源が入力され、⑤「町内」における経験・記憶を踏まえて伝承・更新された⑥ルールや知識を通じて、⑦家や個人の名誉・威信、⑧名誉・威信を競い合うことで発生する興趣、⑨祭礼が創り出す文化財・観光資源としての価値といった公共的用途が出力される（このうち⑨は①～④の資源を外部のアクターから獲得すべく活用される）。こうした諸資源とその入出力のサイクルを分析することを通じて、「町内」内部や「町内」間、「町内」と見物人・行政・経済団体・専門家等との関

係性を析出し、それを通して地方都市の社会構造を描き出すことを論じた。

諸資源をめぐる具体的な分析は「第Ⅱ部 都市祭礼を構成する諸資源とその伝承メカニズム」内の第4～8章において行っている。第4章「町内における家と世代：祭礼をめぐるコンフリクトとダイナミズム」では町内の「家」同士、また世代間の関係性という「町内」の内部構造を分析した。居住歴の長さや間口の大きさといった「家」の格に応じた、各「家」の金銭的・人的負担の抛出とそれに対する名誉・威信の配分とのバランス、そして世代間における名誉・威信の配分をめぐる、「町内」では常にコンフリクトが発生する。そうしたコンフリクトをともなうドラマを通じて、全ての成員に対して興味が配分される。そして興味が伴うがゆえに祭礼をめぐる人びとの経験・記憶が共有され、祭礼におけるルール・知識がダイナミズムをともなって伝承される。さらに名誉・威信をめぐる不満が次回以降の祭礼で挽回し、納得のいく形で全体的相互給付関係が満たされることを期待して、各「家」はその後も祭礼にコミットメントしていく。

第5章「山組間における対抗関係の管理と見物人の作用：裸参りを手がかりとして」では裸参りという4日間の行事を通じて、複数の町内間の対抗関係を通じた都市祭礼の興味が、町内間に加えて見物人をも含み込む関係性の中で創出されるメカニズムを分析した。山組同士がそれぞれ互いの威信を誇示しあう経験や、過去の対抗関係をめぐる世代間の記憶の共有を通して山組間に「因縁」という対抗関係のフレームが創出され、それを通じた興味が発生する。祭礼を眺める見物人は喧嘩による興味が期待しつつ、噂話の伝播や山組への働きかけを通じて対抗関係を煽るといった形で、フレームの構築や強化に関与していく。

第6章「シャギリをめぐる山組間の協力と山組組織の再編」では、祭礼を成立させるために必要なシャギリ(囃子)という技能とその人的資源の山組による調達に焦点を当てる。高度成長期以降に農村からのその外部調達が困難となり、山組内での人材の育成と山組間の相互協力による調達が行われるようになった。またシャギリの担い手を確保すべく、それまで山組内の「家」の格に基づく秩序によって行われてきた祭礼が、より多くの「家」や女子、さらに山組外の参加者にも開放されていく。さらに各山組でのシャギリの練習の場が祭礼の伝承に重要な意味を持つようになり、山組における人材育成の仕組み全体も変容していく。

第7章「若衆たちの資金獲得と社会的ネットワークの活用」では、山組内の各「家」が抛出する祭典費だけでは不十分な資金を、祭礼の担い手である若衆たち1人1人が家業や生活の中で関わる山組内外の人びととのネットワークを駆使することを通じて獲得する仕組みと、それが若衆や山組の社会関係資本という威信の誇示ともなるという機能を分析した。その際には山組の範囲を超えた自分の家の取引先・仕入れ先、青年会議所による若手事業者間の社会関係資本が駆使され、祭礼の資金調達自体もそうした地方都市の社会的ネットワークを創り上げる媒介となっている。

第8章「曳山をめぐる共同性と公共性：コモンズとしての曳山の管理とその変容」では、各山組が曳山(山車)という資源の管理のために、公共的用途の提供を通じて外部のアクターとの間で創り上げた社会関係について論じた。第一に中心市街地への集客という観点から、山組の若衆メンバーを中心に青年会議所を通して創り上げた曳山博物館構想の実現を通して、曳山の修理設備を入手するプロセスを示した。第二に山組が文化財という公共

的用益への曳山の提供を通じて修理に必要な資金と技能を入手し、その一方曳山の管理の主導権が専門家や行政へ委譲されざるを得なくなり、また山組間で曳山を競い合うという祭礼のあり方も変容したことを論じた。

第Ⅲ部「コモンズとしての都市祭礼／地域社会／公共性」では、第Ⅱ部の分析を集成しつつ、祭礼全体の資源管理のあり方を論じている。第9章「観光・市民の祭り・文化財：祭礼の継承における公共的な文脈の活用と意味づけの再編成」では、戦前から戦後にかけての長浜の社会変動を背景に、山組連合が曳山祭をそれぞれの時期の社会的文脈に合わせてどのように公共的用益を提供して祭礼を継承してきたか、その際に行政や観光協会といった外部のアクターとどのような関係性を取り結んできたかについて分析した。

第10章「本論文における知見の整理と結論」では本論文の都市社会学や祭礼研究、そしてコモンズ論に対する意義について明らかにした。第一に従来の都市社会学では「家」とコミュニティの分断、「家」や「町内」のような共同性の崩壊を前提にした「コミュニティ」の可能性を論じてきた。これに対して本論文では聚落的家連合による全体的相互給付関係としての「町内」が、公共的用益と引き換えに行政的な枠組みや地域経済団体、ボランティアといった多様な縁、外部のアクターとの関係性を活用して資源を調達し、コンフリクトや対抗関係のダイナミズムを通じて変容しつつ存続していく仕組みを明らかにした。

第二に、本論文では従来の祭礼研究と異なり、祭礼という非日常の場だけでなく、そうした非日常と日常との関係性を分析することができた。祭礼をめぐるコンフリクトについての「町内」での日常的な語りは興味や経験・記憶の共有、ダイナミズムをともなうルール・知識の継承をもたらし、また祭礼の資金調達と結びついた形で日常的な社会関係資本も構築されている。町内の人びとは単に非日常の場のみにおいて祭礼を行うのではなく、そのように日常においても祭礼を生きている。

第三にコモンズ論への貢献である。従来のコモンズ論は共同体による資源管理を自己完結的にとらえ、外部のアクターとの関係性を通じた管理や、管理の仕組みの変化や新たな創出の可能性を論じてこなかった。本論文は祭礼をめぐる諸資源の管理とその公共的用益を通じた外部からの調達を通じて、町内・町内間の共同性と町内にとどまらない社会的ネットワークや公共性の交差・重層として地域社会を描くことができた。さらにコモンズの管理のあり方の、外部のアクターとの関係性を通じたフレキシブルな変容や、内部のコンフリクトや対抗関係を通じて更新されるダイナミズムを描き出すことができた。

以上が本論文の要旨である。